「身近な夏の不思議体験 2016 ｲﾝ 山科」開催

7 月 31 日（日）本学実習室にて、市民組織『山科区「人づくり」ネットワーク』との協働で、理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2016 イン山科」を開催しました。

地域の小学生に理科の楽しさを知ってもらいたいと始まった本講座は今年で 6 回目を迎え、山科区の夏の恒例行事となっています。特に、京都市から 2 度の表彰（2015 年度：京都はぐくみ憲章実践者表彰「育ち学ぶ施設」部門、2016 年度：地域力アップ貢献事業者等表彰）を受けるなど地域連携行事としても高く評価されています。

当日は山科地区の児童 120 名が午前と午後の部に分かれ、身近な科学の不思議を体験。学生実習支援センター教員と企画・広報課職員のほか、『山科区「人づくり」ネットワーク』に参加している約 30 名の一般市民が地域ボランティアとして運営に携わりました。

今年のキーワードは植物の色素「アントシアニン」です。この色素は溶液の pH によって色が鮮やかに変化します。今回はこの性質を利用して 2 種類の実験を行いました。

最初の実験「紫色の秘密」では、アントシアニンを多く含む紫いもから調製した紫いも液を使って、レモンや虫刺され外用薬等、身の周りにある溶液の性質を一緒に調べました。身近な溶液に紫いも液を入れた瞬間、色が鮮やかに変わる光景に「うわあ」と声があがり、その後も目を輝かせて熱心に実験に取り組む子供達の姿が印象的でした。

2 番目の実験「電気の力で寒天に 3D 模様を描いてみよう」は、最初の実験の発展編です。アントシアニンの性質と食塩の電気分解を利用して、紫キャベツ液でつくった寒天に電気を流し、模様を描いてもらいました。青紫色の寒天が、電極のプラス極側では赤色に、マイナス極側では黄緑色に変化する様子に「科学の力で模様が描けた！面白い！」と会場は大いに盛り上がりました。

実験終了後「ハラハラ、ドキドキ、ワクワクするからとても楽しくて面白かった」、「もっと理科について知りたい」、「色々な道具を使えてよかった」等の感想が寄せられ、今年もたくさんの子供達に自然現象の不思議と理科実験の楽しさを満喫してもらえたと感じています。

また、この講座実施には地域ボランティアスタッフの協力も欠かせませんでした。忙しい合間を縫って事前リハーサルに参加して理解を深め、また準備から指導まで熱心に活動を支えてくださいました『山科区「人づくり」ネットワーク』の方々にこの場を借りて深く感謝いたします。

今後も地域に根差した大学の役割として、近隣学区の児童の理科教育の一助となるよう、市民組織と共にこの取り組みを継続していきたいと考えています。

なお、本講座は国立青年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施したことを、最後に申し添えます。

学生実習支援センター 助教 髙尾 郁子